

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年1月23日(月)

みんなの居場所

【継続】教員としての口

以前のみんなの居場所、私の教員がニューイヤー駅伝に出ると告知しましたが、今年は残念ながら「口」の影響で棄権してしまいました。現在、福岡の安川電機陸上部に所属する大谷君（選手）ですが、以前の勤務校で講話をしていただいたことを思い出します。お話を内容を少しまとめてみました。

- 小・中学生に与える大切なこと
- ①挨拶は基本中の基本
- ②ルールを守ること
- ③時間を大切にすること
- ④目標を明確に持つこと
- ⑤交渉相手、家族を大切にすること
- 私が学びましたこと

①挨拶は基本中の基本
②ルールを守ること
③時間を大切にすること
④目標を明確に持つこと
⑤交渉相手、家族を大切にすること
私が学びましたこと

卒業前継続「中学校とは」「友人と自分」

思春期の入り口に立っている子供達という話をしましたが、中学校では自我意識の芽生えにより、友人との付き合い方も変わります。友人関係は子供達にとっての絆を築き、更なる成長をもたらします。しかし、その成長を傍から見ている「自分」を伴っていることが分かります。男子はなかなか本音を吐き出すことが難しく、逆に本音を言える仲間を見つけたら、女子はZ世代に明け暮れ、絶えずつながりを求める傾向が多いように感じます。この大きな中で、友人関係を悲しい思いや、寂しい思いを抱くこともあります。私達が中学生の頃は「親友」という概念も少し変化があるように思います。

また、自意識が強くなっている時期でもあり、「仲間からどう見られているか」を気にするようになる。反動で自己表現をしようとする傾向があります。例えば、男子が恥ずかしがったりの悪ふざけをするのがまじり込んでいます。聴いている自分と向き合っている証であり、あまりの気遣いには、毅然とした態度で接するよりも、大人に対する敬意や態度、尊敬の念を失わないでいられるように。

私達も中学生の時を思い出してみても、最も大切にしていたものは自分であり友人であり、その繋がりが、今の中学生で変わらぬものがあります。しかし、最近、友人とつながる方法が多岐にわたり、保護者としての「果敢としてこれらにどう向き合っていくか」と悩む場面も増えています。根本にあるものは変わらぬ中で、中学校生活での変化を、子供達が成長していく「通過点」として自ら見つけていけば、大人も冷静に対処できるはずです。親友は私と最近、子供の対応に戸惑っているお母さん。

シリーズ「自分を語る」②の

私は玉名町小学校の9年勤務を経て退職しましたが、その間、部活動はバドミントン部担当でした。私が主に担当させて頂戴したのは、玉名町小学校の2年目からです。私が担当になってからは、基礎練習のメニューについては子供達自身で考えさせるようにして、足りない項目についてはアドバイスの程度で留めました。実戦練習においてもかなりの部分を子供達の判断に任せ、私は自分の運動不足解消のため、子供達とよく試合を見ていました。

不由議なもので、私に負けず嫌いでいた先生「勝てないよ。」「とこのことを考え始めました。それに伴う練習を私に任せてほしいという声も聞かれました。練習場のもが主体的にならなくなった感です。子供達が主体的に活動し、必要に応じて指導を徹底してほしいというスタイルが、部の中で浸透してきていました。

この取り組みが、数年後に結果が伴うようになってきました。当時出ていた大会のメインは「玉名町市小学生バドミントン大会」です。学年オリンピック等は数名の選手が出ていますが、美濃町の対外試合はこの1つだけでした。4年目頃の頃から、3位入賞が目標の出始めました。その影響で、この頃から、入賞しなかった子供達に「度々」「の気持ち」が湧いてきて、これまで以上に頑張るようになってきたのです。子供達の頑張りに保護者の皆様も心え、クラブチームに所属して頑張る子供達も始まりました。その一方で部活動に良い影響が出て、クラブチーム所属の子供達が後輩や友達に対して、スキルを教えるようになっていきました。その頃から都府県大会では多くの入賞者を出すようになっていきました。

※ 「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の可・不可）